

事例研究

杉浦 聡

ヤマハ株式会社

半導体事業部商品開発部プロセス支援グループ

主任

簡易な調達先アセスメント方法の提案

- 共に成長する改善を目指して -

講演概要

リーマンショック以降、弊社ではコスト削減の観点から、開発に占める外部調達の割合が増えている。このことは、調達先の開発プロセスが製品の品質へ及ぼす影響が増していることを意味している。近年、調達に関する問題が散見され、製品の品質を維持するためにも、調達先の開発プロセスの成熟度を把握すること、更には調達先の成熟度を高めていくことが重要になっている。

調達先の開発プロセスを知るには、プロセスのアセスメントをすることになるが、本格的なアセスメントは準備から完了までにかかる期間も長く、アセスメントする側、される側ともに大きな負荷がかかる。

そこで、負荷を抑えた、簡易に実施できるアセスメント方法を検討し、試行した。アセスメントは、負荷を抑えるため、調査項目の数を絞り、各調査項目も簡単なものにした。また、調達先へのアンケートに1週間、現地ヒアリングに2時間、結果報告作成に1週間、その他準備、日程調整を含めて3週間~1ヶ月程度で完了できるような工程にした。

調達先はソフト開発、ハード開発、ソフトウェアテストと多岐にわたることから、異なる業務内容の調達先に対して、同じ方法を用いてアセスメントを実施。試行の結果、以下のことが確認できた。

- 調達先のアセスメント結果と調達業務の質を比較したところ、関連があることが分かった

これにより、アセスメントにより調達先のプロセスの評価が出来ていることが確認できた

- 期間は短いもので1ヶ月弱、実際にかかった工数は15時間程度

アセスメントにかかる負荷を最小限に抑えることができた

- ソフト、ハードを問わず、同じ方法でアセスメントを実施し、評価できることが分かった

今後は、アセスメント方法の改善、結果の利用方法の検討を進め、調達先の開発プロセスと自社の調達プロセスを改善し、ひいては製品品質の向上につなげていきたい。

S1a

7月28日

9：30～10：15

会議室A

All Rights Reserved, Copyrightc 2011,JISA